

## (5) 水管理



### 【ポイント】

- 初期分けつを確保するため、**活着後の浅水管理を徹底**する。
- 無効分けつの抑制、根圏の発達促進、適正な葉色への誘導のため、**中干しは田植1か月後までに遅れないように確実に**行う。
- 適正籾数に誘導するため、**幼穂形成期までは落水期間が長めの間断かん水**を行う。
- 稲体や根の健全化のため、**幼穂形成期から出穂期まで飽水管理**を行う。
- 稲体の活力を維持し、胴割米の発生を防ぐため、**出穂後20日間は湛水管理**とし、刈取り**5～7日前までは間断かん水**を行う。

### ①活着期

- ・田植後3日間程度はやや深水にして、活着を促進する。

### ②分けつ期

- ・活着後は浅水管理により水温の上昇に努め、下位の強勢分けつの発生を促進する。
- ・「富富富」の苗の草丈は、「コシヒカリ」に比べて短く、**深水の場合、苗が水没、徒長するとともに初期分けつの発生が抑制される**ので、代かき時に田面の均平に努めるとともに、初期の水管理には十分留意する。

深水で栽培した場合、「富富富」、「コシヒカリ」ともに茎数は少ない。  
また、深水による茎数の減少程度は、「コシヒカリ」に比べて「富富富」で大きい。

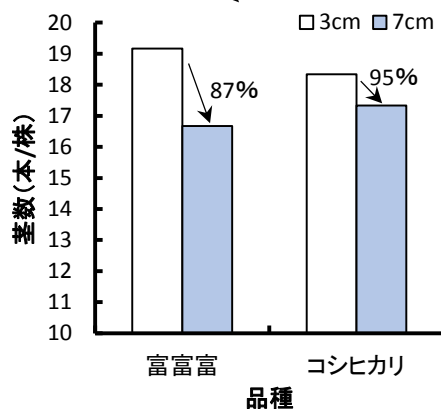


図 4-5-1 水深が茎数に及ぼす影響 (H30 農研)

- 注1) ポット試験 移植後30日調査 (移植日 5/15)  
注2) 水深: 移植～調査まで3または7cmを継続  
注3) 図中の矢印付近の数値: 茎数の減少程度

水深スケール等を活用して、浅水管理に努める。



写真 4-5-1 水深スケールを活用した水管理 (H30 現地)